

再意見提出フォーマット

再意見提出者	個人
--------	----

意見項目	意見内容
(1) ワイヤレスブロードバンドの今後の展望(2015年ごろや2020年ごろのワイアレスブロードバンドのサービスイメージ、システムイメージなど)	
(2) ワイヤレスブロードバンドを実現するための課題(周波数の確保、国際標準化・研究開発の推進、利用環境の整備)	
(3) 関連する国内外の動向と課題	
(4) その他、将来のワイアレスブロードバンドによるサービスやシステムに関する事項	

意見募集において寄せられた意見に対する意見

No.	意見提出者	寄せられた意見に対する意見
全体	UMTS900バンド・プランと整合した900MHz帯の利用再検討意見の提出者各位	<p>950MHz帯の RFID 及び ワイヤレスセンサーネットワーク(WSN)を、UMTS900バンド・プランに整合するように 915MHz付近へ移転検討することに、以下の点の考慮を行うことを前提に賛同致します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ RFID は、その技術的特徴から リーダー・ライターの変更や改修は必要であるものの、タグ側は変更の必要が無く、米国や中国との周波数共通化のメリットが大きいと考えられる。更に、欧州(ETSI)で 915MHz帯利用の検討が進んでいる現状から、世界共通周波数帯の実現は国際物流などの観点から望ましい。従って、周波数移転は、RFID と WSN の国際共通周波数実現の観点も含めて検討すること。 ・ WSN は日本では普及の初期段階であるが、携帯(電話)端末、無線LAN搭載機器に続いて、最小限のインフラかつ最低コストで多様な高信頼性ネットワークを提供できる特徴から、産業、社会インフラなどの新たな分野で多くの先行投資が行われている。915MHz帯への周波数移転を実施するとすれば、出来るだけ速やかな具体的検討の開始が必要である。現在、研究開発や事業展開が進行しているシステムについて、検討と並行して、先行的に周波数移転した状態での運用試験や評価などができるように配慮すること。 ・ 将来的に、RFID と WSN の周波数は、現在の 8MHz程度の帯域幅から 最大 30MHz程度まで拡張できる余地を確保すること。これは、以下の理由による。 <ul style="list-style-type: none"> (1)高出力パッシブ RFID リーダーライターの広い干渉範囲を伴う為に、今後、普及が見込まれる WSN やアクティブ RFID は周波数離隔して運用(自動周波数選択)する必要が予想されること、 (2) WSN はインフラ規模や運用コストを最小とるようにメッシュ(中継)技術を利用することが多く、システム内干渉回避の為にある程度の周波数帯域幅(チャネル数)を必要とすること、 (3) WSN は、個々のセンサーの通信トラフィックは小さいが、QoS や高信頼性が求められる。このような WSN が複数システム、周波数共用して共存する為には、全体としての周波数利用効率と高信頼性を確保することが可能な周波数帯域幅が必要である。 <p>以上</p>